

# 作事組だより

第129号(2025年6月発行)

一般社団法人 京町家作事組

〒604-8241

京都市中京区三条通新町西入釜座町32

Tel 075-252-0392 Fax 075-252-2392

E-mail: kyomachiya@sakujigumi.com

事務局開局時間: (月)9:30-12:30

(火・木・金)9:30-16:30(祝祭日を除く)



## 【F邸改修工事完成現場報告】

今回、改修のご依頼をいただいたF邸は、両隣に挟まれた三連棟の真ん中の二階建ての長屋で、建物中心より手前三間(サンケン、約6m)が居住部分、奥三間が作業場という間取りの、織屋建ての京町家です。

工事前は、北側大屋根の、北の桁より一間半(約3m)の位置の母屋を棟木とし、それより南一間半を逆流りに屋根をやり替え、建物中心に地獄の谷を設ける改造がされた大屋根が二棟ある状態でした。今回本来の大屋根、南より二間(約4m)の位置に棟がある、単純な両流れの切妻屋根を復元いたしました。

三連棟の真ん中の物件のため、両妻側の柱のレベルを考慮し、現状のレベルでの柱の根継ぎ修繕が最適であると考えました。不陸は比較的規則正しい状態であったため、調整を中の柱のレベルを上げ下げすることで整合性を図り、結果、一階部分の床の不陸は問題なく修正できました。

二階に関しては、床に多少の不陸はあったものの、オクの間、木置の床板が現在では貴重な南洋材の使用された状態のよいフローリングであったため、既存の床板を保存することを優先いたしました。

また、築年数を重ねた木造建築にはよく見られることですが、台所部分や元トイレ棟、特に元風呂棟(家屋とは別棟)などの水回りは、ブロック基礎の上に立つ柱から棟木、桁にかけ、著しい虫害が見受けられました。ですが、被害は水回りのみと限定的であり、全体的には健全と言える状態でした。今回は傷んだ部分の改修に加え、床下に南北にかけて通気口を十分に設けることで、今後の防湿対策としました。

南半分の居室は、一階、二階ともに状態もよく既存の仕様を変えず最低限の手入れのみとしました。奥の作業場(織場)を現代的な吹き抜けのLDKへ改修したこともあり、全体的に施主様の暮らしやすさと、京町家ならではの良さを残した調和のとれたハイブリッド京町家になりました。

私事ですが、今回は作事組での初仕事でこのような素晴らしいお宅を担当する機会をいただきありがとうございました。工事を進めるなかで、路地奥の家屋のため搬入、揚材の人力作業での苦勞(普段から文明の利器に慣れすぎていました)など、京町家改修についてさらに考える機会となりました。また、京町家の猛者である諸先輩の皆様の目が光るなかではありましたが、ご指導ご鞭撻をいただいたことでよい仕事ができ、日々背筋が伸びる思いでした。

最後になりましたが、大切な家屋の改修をお任せいただいた作事組と、何より施主のF様に感謝申し上げます。F様ご家族様の更なるご健勝とF邸の末永い弥栄をお祈りいたします。

(京町家作事組施工担当 高田 聡)



写真：地獄の屋根のあった織場が、屋根を復元し、明るい吹き抜けのLDKへ変貌

## 🌻お施主からのお言葉🌻

祖父母が住んでいた京町家には、幼い頃からの思い出がたくさん詰まっており、深い愛着がありました。売却も検討しましたが、やはり思い出の詰まった家を手放すことはできず、改修して神奈川から移住することに決めました。

しかし、古い建物をどのように現代の生活に合わせれば良いのか、分からないことばかりで途

方に暮れていましたがいくつかの会社を調べている中で「京町家作事組」の存在を知りました。京都の伝統的な京町家の保存・修繕を目的として活動されているということで、お話を伺い、とても安心感を覚えました。また、作事組には京町家に精通した職人さんが多く所属されており、建物の良さを最大限に活かしつつ、私たちの生活スタイルに合わせた改修をしてくれると思いました。

結果、古さと新しさが美しく調和した、想像以上の素敵な住まいが完成しました。

細部にまで職人さんの技術と心遣いが感じられ、この京町家で新しい生活を始められることを心から嬉しく思っています。

この度の改修を通して、私自身も京町家の魅力に改めて気づかされました。これからも、京町家に興味を持ち、新たに住む方が増えることを願っています。  
(施主：T.F.)

## 【第8回作事組全国協議会 鞆の浦大会 & 中国四国町並みゼミ参加報告】

12月8・9日に作事組全国協議会の鞆の浦大会が開催された。今回は全国町並みゼミ中国・四国ブロックとの合同開催である。

鞆の浦はいわゆる架橋計画論争の決着から、現在は町家や民家の活用や改修に携わる技術者の育成継承などの実務的な課題にシフトしつつある。今回のパネルディスカッションでも地元の鞆まちづくり会社が進めている大型町家の宿泊施設への改修課題や用途変更に伴う法令上の課題などが報告され、また、活用・運用に必要な資金確保、金融スキームなどが紹介された。

報告の中で特に気になったのがやはり伝統構法の改修と法令上の諸課題についてである。

京都では京町家の改修・活用に関わる法令上の課題は【京町家出来ること集】や【3条適用除外】など、伝統構法を好意的かつ現実的に改修・活用できる仕組みが確立されている。ただし、地方においては今も伝統構法の町家であっても建築確認申請が必要となれば法適合の課題が多く立ちはだかる。令和7年度からの建築基準法の改正も、京都では特に町家に携わる技術者からは今までの実務に影響するところがないと楽観的であるが、他の団体から今回の改正が伝統構法の改修に支障が出るのではないかと心配の声が多く聞こえた。

各地の技術者や行政関係者と情報交換を引き続き行い、伝統構法の適切な性能評価や先行する行政の実績などを紹介し、伝統構法による改修が法令上の障壁とならなくなるように努めていきたいと思う。

(京町家作事組理事・設計 井澤弘隆)



## 【シリーズ：新・町家構造事始 第3回】

今回は2010年に発行したブックレット「町家構造事始」の内容を紹介します。現場実務者として町家の構造性能をまとめたものです。すべて大正以前型の町家に関する考察です。

1章では町家の軸組構造をその建て方から考えました。前面道路しか空地の無いウナギの寝床いっばいに建てられる架構の必要十分条件を、作業の時系列で整理しました(図1)。その中には頑なに守られている決まりごと、母屋まで1本の通し柱の仕上がり、桁方向と妻方向で全く異なる軸組の基本があります(図2)。仕口もまた明快で①柱脚は石に載るだけ、②2階の床梁と側つなぎ、地棟だけを1本柱で柱に留め、③小屋組は載るだけで水平には効き上向きにはフリーです。この原則は後日、祇園祭の山鉾の復元設計でも大いに役立ちました。

2章では町家の構造での「無い物探し」よりも「無い訳探し」を試みています。斜材や面材の剛性、足固めなど、一見弱そうな町家に思い付きで「無い物」を加える安易な耐震補強への警鐘です。兼好法師を引用し、京都の都市生活の数百年来の伝統、「そつを出さない」メンタリティーにも触れました。

3章では町家の立体的な三角柱のバネのメカニックを説明しています。紙や竹串による簡単な模型を押し引きすることで、町家の立体的な変形性能と自立するバネは誰にでも理解できます(図3)。桁行に壁が不要なことも一目瞭然です。母親の薬の空箱で作った模型は、その後、東北から九

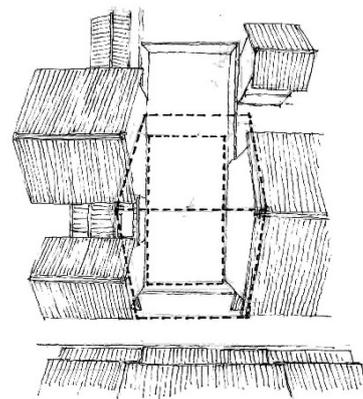


図1 ウナギの寝床に立つ町家

州まで旅のお供になりました。当時読み返していたピーターライスの自伝がインスピレーションを受けてくれた気がします。

4章では町家が実際の地震でどのように揺れるのかをイメージしました。2005年に大型振動実験台で揺らされた昭和初期型の町家の映像と、紙の模型からだけでの推論です。町家の3枚の側壁が、柱頭を回転させ、前後左右に波打ち動くイメージです。14年後、wallstatのシミュレーションで仮説が間違いでなかったことが示されました(図4)。柱脚の移動や母屋の変形など、パラメータがさらに増すこともわかりました。町家はその軸組だけとなった姿でも三角柱として自立できること、地震時に最後まで人命を守る可能性に町家存続の将来と希望を重ねました。阪神淡路程度の地震では、町家はまったく倒壊しないことがシミュレーションで判りました。

5章では、町家の構造のディテールと全体の関係を整理しました。石端建て、足固めの不在、ヒトミ梁の象徴性、側柱の強軸方向、瓦の重さ、通し貫の不在など。いずれも、町家の地震に対する変形性能確保のため、肯定的な意味づけができます。ただし、四隅の桁行の壁の存在はwallstatでの検証により、地震時には不要であることが判りました。クリーブ変形や風力など別の観点が必要です。準棟纂冪のカウンターウェイトとしての役割はwallstatが証明してくれました(図5)。

6章ではあとがきとして昭和初期型の町家に触れています(図6)。昭和初期型の町家は、京都に残る町家の過半を占めています。それ以前の明快なジオメトリが失われ、在来工法の軸組と土壁のミックスした過渡的な構造となっています。地震に対する性能評価が求められている点は14年前から変わりません。シミュレーションにより、大正以前型の町家の性能評価や改修手法とは別に考える必要ははっきりしました。

以下余談になります。

京都をはじめ盛岡、姫路、龍野、川越、奈良、八女など、呼ばれるままに「町家構造事始」による話題提供を続けてきました。実際に模型に触れているのに「ありえない」(!)と拒絶したり、「竹串の紙縫りの剛接で模型が自立している」(!)という構造の学識者方に出会えました。一方、現場の実務者方には好評で、日本の各地で、伝統構法への志を共有し強化できた15年の実感です。盛岡では若い設計士が模型を焼酎の空き箱に大切に仕舞ってくれました。姫路では文章の目次のキャッチコピーが良いとほめていただき、八女では地元の仲間に配りたいと何冊も所望いただけました。

2010年、景観まちづくりセンターでのプレゼン「町家を伝統構法で直す選択」。京都市が独自の耐震基準を策定した3年後でした。先輩の同業者から「皆でやってる耐震診断の輪をなぜ乱すのか?」(!)と意見がありました。多数の市の職員の面前で、頑張る気持ちは分かりましたが、技術的にも知的誠実さでも「?」でした。その後も、あちこちの大学や、建築士会、京都市の若手職員の勉強会などで話す機会をいただいています。(祇園祭の山鉦の話のほうがウケますが)。

総論として15年間、京都の建築指導行政や構造の学識者の反応では、面と向かって評価はされないものの裏からの批判も聞こえません。京都の精神風土ではあながちまんざらでもありません。(突かれる隙があればバチバチに叩かれます)。既成の診断や解析に対して、現実的なオルタネイティブとなってくれたことを願います。2023年にwallstatの指導を請いに京大の生存圏に中川貴文先生を訪ねました。手計算レベルで解析が検証できないと行政的な構造審査に載らないのだと伺い、今日の一般的な建築構造のレベル、官学の状況が、門外漢に初めて理解できました。町家や鉦を作った創造的な大工たちの時代に思いを寄せます。

(京町家作事組設計担当 末川 協)

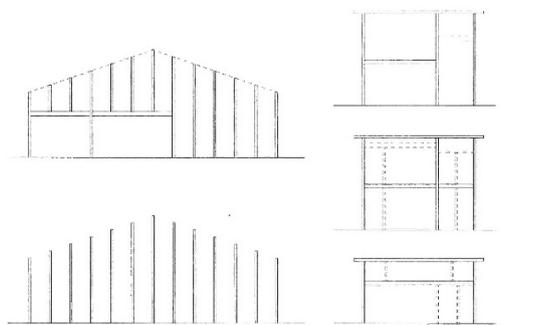


図2 妻方向と桁方向で異なる軸組

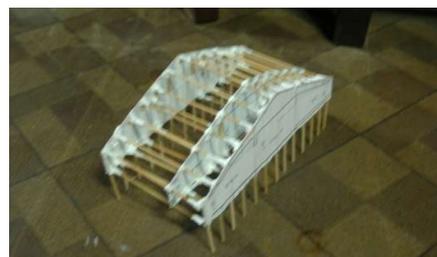


図3 ボール紙と竹串の模型

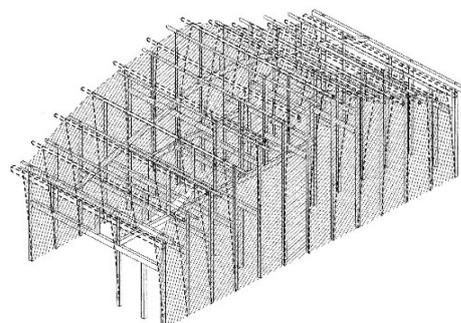


図4 町家の動きのモデル

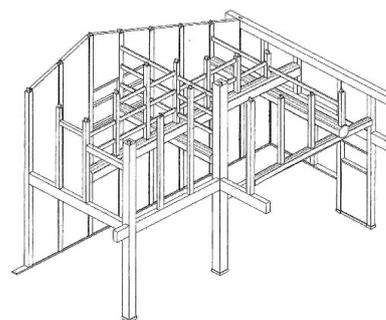


図5 準棟纂冪の軸組

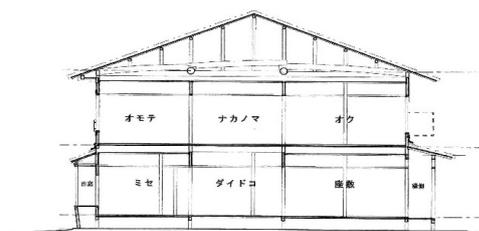


図6 昭和初期型の町家

## 【Y邸改修工事完成報告】

20年前にY氏が西陣に購入した町家を改修させていただいた縁で作事組に改修の依頼があった。またY氏とはこの町家の前に五条通の自宅である町家の隣家のマンション工事による、構造上の故障問題で相談にのっていたこともあった。

主な改修部は20年前には工事を見送った寺院の参道に面した建物の妻面外壁とその奥の大塀と、奥の前栽に面する西側の塀及び水廻り棟であった。

改修の動機のひとつには京都市の「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」による京都市からのお知らせに、Y氏が応じて個別指定を受けていたことがあったが、京町家友の会の当初からの会員である、Y氏の自分が所有している町家をちゃんと修理して守っていききたいという気持ちが最大の動機であった。

とはいうものの費用負担にも限度があり、外廻りでは建物妻面の外壁は焼き杉板の傷みがひどく2階は波板鋼板で発錆していたため、焼き杉板の全面張替え、ケラバ小壁は漆喰塗り替えとしたが、奥の塀は杉板の損傷が比較的少なかったので暴れた杉板を目板で押さえるにとどめ、傷んだ塀瓦は葺き替えではなく補修、鉄板張りの小壁は漆喰補修とした。

前栽に面する西側の塀は20年前に、参道に面する外壁や大塀同様に隣地所有者の同意が得られなかったため、小屋に接する北端の下がりを揚げ前することができなかった。そこが20年経ってさらに下がっていたため、今回は揚げ前や柱の補強をすることにした。小屋に接する柱は小屋と共用になっていたため塀の柱を別に建てて小屋と切り離した。元の壁は杉皮張りであり、前栽に面するため杉皮で張り替えることが望ましいと思いつつも、コスト上、焼杉板とした。

表と裏路地の大塀の支柱は地面に接する部分が腐朽で切れていて、元の状態でやり直して20年ごとにやり替え、というのは負担が大きすぎると考えてコンクリート基礎と柱は沓石をステンレスボルトで貫通して支持し、柱の根が腐朽しても根継ぎだけで済ませられるようにした。

水廻り棟の改修は現代には不要な外便所を取り込むことで、広い浴室や今までなかった脱衣スペースでもある洗面所やバリアフリーの便所を実現した。

昭和の初めに大店の隠居所として建てられた、大塀造りで茶室のある贅を凝らした町家であり、これからも変遷を重ねるだろうが、いつまでも生き続けてくれることを切に願う。

(京町家作事組理事 梶山秀一郎)



浴室、洗面所、トイレを一体化



建物妻面の壁の補修

## 【おもちつきイベント報告】

2024年12月1日(日)11:30～から、今回で第3回目の開催となったおもちつき大会を行いました。20kgの岩手県産ヒメノモチが「ヨイショー、ヨイショー」という威勢のいい掛け声の中、参加者の手でつくたてのおもちになり、あんこ、きな粉、納豆、大根おろし、いそべの5種類のフレーバー食べ放題で町家の中で味わっていただきました。今年はほうじ茶もご用意し、おもちに合うと喜んでいただきました。

もともとは近隣の方々やマンションにお住まいの方に、京町家を生かして活動をしている建築文化を体感してほしいという意図で始めたおもちつきです。参加者に「毎年楽しみにしてるんですよ」といううれしい声をいただいたりと、恒例行事になりつつあります。もうこれ以上お米の価格が上がらず、来年も無事に開催できますように…と願うばかりです。

(京町家作事組事務局 阿部景子)



## 【ベンガラ塗りイベント報告】

ひな祭り直前の寒さが堪える3月2日(日)10:00から、13名の参加者とともに、ベンガラ塗り体験を行いました。まずは、設計・施工から、材料・道具の説明と塗り方についてレクチャーがあり、早速各自刷毛を手に取り、白地の格子や框部分にベンガラを塗り始めました。最初はおそるおそる、でも上から塗っていくこと、格子の間の部分に塗り残しがないようにというコツを押さえ、次第に大胆に塗り広げていき、順調に作業は進んでいきました。約1時間の昼食休憩をはさんで大体ベンガラが乾いたところで、午後からは亜麻仁油を布で重ねて仕上げに入りました。15時過ぎには仕上がり、完璧な出来にみんなでロク々に喜びの声を上げました。

今回、子供たちの参加が多く、にぎやかな楽しい会になりました。お施主様の小さなお子様も長時間の中飽きずに参加してくださり、新居のベンガラを塗ったことはきっと忘れられない思い出になれるだろうと思います。現在町家にお住まいの子供たちも、自宅の町家へのさらなる愛着も育まれたのではないかと思います。一日中、小雨が降ったりやんだりの天気の中でしたが、参加していただいたみなさまに感謝申し上げます。  
(京町家作事組事務局 阿部景子)



建具屋さんにも作ってもらった新品の格子



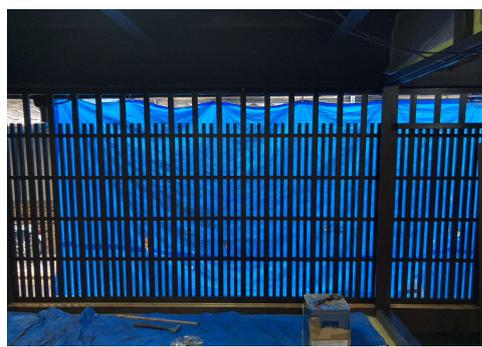
塗り方のレクチャー中



塗り始めは恐る恐る



次第に慣れ、もくもくと作業は進みます。亜麻仁油のしみ込んだ布は、思わぬ火が出ないように重ならないように置き、水に濡らしてから捨てること！を覚えました。



そして、ついに完成！  
裏から見てもバッチリな仕上がりです。  
長時間の作業おつかれさまでした！

## 【上京路地奥の町家 改修現場見学会報告】

3月9日の日曜日、「町家の日」のイベントの一環で標記の見学会が行われました。午前、午後の部とも、定員いっぱいの申し込みがあり、盛況の現場となりました。参加者は、町家のオーナー、改修を検討中の町家居住者、工務店や設計の同業者、建築を学ぶ学生諸子など。日頃からお世話になる京都市「まち再」の職員も来られ、作事組ご最良のお得意様の見慣れた顔もありました。見学会の気配をかぎつけて、朝一番にはお隣のお父さんとお嬢ちゃんが、午後からはお母さんとそのご両親も飛び込みで参加されました。連棟の隣家が、構造も含めしっかり直っているのに安心されたと思います。

本来の契約引き渡し日の前日でしたが、工事は順調に遅れ、階段や元織場のLDKを囲む吹き抜けの手摺の取付が未了、見学者には自己責任で2階に上がって頂きました。4か所の造付家具も未完成、お披露目とはな

らずすこし残念でしたが、大工や左官の手仕事の出来栄に見学者の皆さん、感心いただけました様子です。伝統構法による改修の十分な周知となりました。予定時間を過ぎても質問が続き、昼食の時間もないほどでした。

1週間前のベンガラ塗に続き、現場公開に快諾頂いた施主の藤井様に感謝です。追われている工程の中、余分な清掃や片付けの手間を頂いた高田工務店にもお世話になりました。ありがとうございました。  
(京町家作事組設計担当 末川協)



### 【下京大型町家 改修現場見学会報告】

町家の日のイベントに合わせて、現在改修中の町家の構造見学会を3/15に開催しました。午前午後合わせて約20名の方に来ていただき、町家の構造改修に関するお話をさせていただきました。

作事組が大切にしている伝統構法による改修については、見学者の皆さん意識のある方々ばかりでしたので多く語らずとももの雰囲気でした。

揚前、根継、土壁の改修を説明して、町家の構造性能に関する特徴や構造改修でやってはならないこと、つまりNG改修などを紹介させていただきました。

大きな地震が続く昨今、京町家の構造改修・性能を正しく伝えて、プロ同士だけではなく、一般の方々への理解を広げる貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。

(京町家作事組理事・設計担当 井澤弘隆)



### 【作事組古道具市】

作事組では、残念ながら取り壊される予定の町家や改修中の町家から救出してきた建具や古道具などを安価にてお譲りさせていただいております。Instagramに写真を載せていますが、新入荷のものをここでもご紹介いたします。

もちろん取付・設置・建合せ・灰汁洗い・古色塗り等も行いますので、気になるものがございましたらお問合せください。

【QRコード】  
作事組Instagram



#28 衝立

高さ1250×幅1270×奥行320



#29 机

高さ720×幅1330×奥行780



#30 ミシン台

高さ770×幅1220×奥行430



#31 箆笥

高さ1030×幅890×奥行400



#32 箆笥

高さ1600×幅900×奥行370



#33 箆笥

高さ1050×幅900×奥行410



#34 箆笥

高さ1060×幅910×奥行420



#35 箆笥

高さ620×幅880×奥行370



#36 箆笥

高さ610×幅430×奥行300



#37 長持

高さ650×幅1510×奥行600



#38 長持

高さ670×幅1570×奥行660



#39 長持

高さ630×幅1550×奥行640



#40 長持

高さ570×幅1480×奥行570



#41 長持

高さ630×幅1560×奥行630



#42 長持

高さ640×幅1550×奥行630



#43 火鉢

高さ250×幅400

#44 火鉢

高さ270×幅420



#45 火鉢

高さ330×幅450



#46 火鉢

高さ300×幅250



#47 火鉢

高さ290×幅230



#48 火鉢

高さ220×幅290

## 【新社員紹介】

## 近畿ガス工事株式会社京滋営業所



作事組の担当、山田祥嗣と申します。

弊社は昭和25年の設立以来、主として道路面のガス管の敷設や入れ替え工事、住宅・学校・商業施設等のガス配管・設備工事をはじめとして、ガス管の点検や修繕等の保全業務を担わせていただいております。私自身は23歳で入社以降、30年ずっとマンション・戸建・町家に関する内管工事を担当させていただいております。

私が入社した1994年当時は、阪神大震災が発生し、1年以上兵庫県のさまざまな現場に、ガスの復旧の応援に行く経験をさせていただきました。

町家のガス工事の際に気を付けていることは、設計・工務店とルートを打合せして、意匠的に目立たないところに配管をもっていくことや、なるべく最短距離で地中に埋めることです。

幼少期に寺の敷地内で育ったことや震災の経験から、町家などの歴史ある建物を、姿形を変えずに後世に残して行ってほしいと思っています。その力に少しでもなれたらと思っています。